

自立活動（言語障害教育）

2019年度特別支援学校教員資格認定試験問題（第2次）

自立活動に関する科目（Ⅱ）

（問1～問6 全6問）

時間9：30～11：10（100分）

（受験上の注意）

- 1 監督者の「始め」の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題冊子は、表紙を除いて1ページです。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、落丁・乱丁及び解答用紙の汚れに気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 3 解答は、論述式です。
- 4 解答用紙は、問別に9枚あります。はずしたクリップは再度使用するの、なくさないようにしてください。
別に下書き用紙が1枚あります。
全ての用紙に、
 - ①種目欄
受験する種目の□欄に✓を記入してください。
 - ②受験番号欄
受験番号を記入してください。
 - ③氏名欄
氏名を記入してください。
- 5 解答は、問と同じ番号の解答用紙に記入してください。
解答用紙のおもて面に書ききれない場合は、うら面に記入してください。
解答用紙の※欄は採点欄です。何も記入しないでください。
筆記用具は、HBの黒鉛筆を使用してください。
- 6 この試験の解答時間は、「始め」の合図があつてから、100分です。
- 7 当該試験開始から終了までは、退出できません。ただし、用便や発病等やむを得ない場合には挙手をし、監督者の指示に従ってください。
- 8 監督者の「やめ」の合図があつたら、解答を直ちにやめ、解答用紙を上から問1→2→3→4→5→6→下書き用紙の順に並べ、左上をクリップで綴じ、回収されるまで、着席したままで待っていてください。
- 9 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

問1 言語発達のためには四つの基盤が必要であると言われている。それらは、①生理学的基盤、②社会的相互交渉の基盤、③認知的基盤、④大脳の言語中枢の基盤である。言語発達を成り立たせる各基盤について説明し、その障害がどのような問題を生じさせるかを述べなさい。

問2 正常構音の獲得を目標とした指導に、「言語指示以外の形式で児童に自身の構音操作を呈示する方法」を用いる意義について述べなさい。

問3 ^{きつおん}吃音のある児童生徒が、吃音のある人のセルフヘルプ・グループに参加することは、自立活動の観点からどのような意義があるか。「健康の保持」「心理的な安定」「人間関係の形成」「コミュニケーション」の四つの区分に即して述べなさい。

問4 「生後5～6か月」、「生後10～15か月」、「1歳半頃」、「2歳代」の標準的な語彙の発達について説明しなさい。

問5 通級による指導の実施形態である「自校通級」及び「他校通級」について、それぞれの利点と留意点を述べなさい。

問6 次の用語のうちから四つ選び、それぞれの用語について説明しなさい。

- (1) 大人の基本姿勢 (SOUL)
- (2) 側音化構音
- (3) 実行機能
- (4) 吃音の自然治癒
- (5) PVT-R
- (6) 誤嚥性肺炎